

平成 28 年 10 月 24 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 28 年 10 月 24 日 (月曜日)

午後 2 時 30 分から午後 3 時 35 分まで

2 場 所 教育委員会 会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	若月 和浩	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	武樋 正隆	教育施設課長	中村 仁
学務課長	茂田井裕子	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長	大矢 芳彦	保育課長	大野 宏
中央公民館長	水島 幸枝	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	小熊 博史	学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	星野 麻美	教育総務課庶務係	濱 悠子
学校教育課企画推進係長	木村 和哉		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 44 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 10 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 19 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 44 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 44 号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。本件について、事務局の説明を求める。

(若月教育部長) 長岡市教育委員会表彰規則第 2 条第 11 号に該当する候補者について説明する。被表彰候補者は、長岡ベンチャークラブである。長岡ベンチャークラブは、平成 13 年から市立学校や児童館を中心に図書を寄贈しており、数量はこれまでに約 1,000 冊、金額にして約 150 万円になる。また平成 22 年から、双葉寮でボランティア活動も実施している。今度も引き続き活動を継続すると第 9 号に該当することが見込まれるが、平成 29 年 6 月に解散することが決定している。多年にわたる寄附や奉仕活動への取り組みに対し、感謝状を贈呈したいと考え、内申を行ったものである。ぜひ議論をお願いしたい。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員) 候補者である長岡ベンチャークラブの概要について、より詳しい説明を求める。

(若月教育部長) 長岡ベンチャークラブは、概ね 45 歳までの女性が会員となり慈善活動を目的とする任意団体である。

(高橋教育長) 各号に基準がありその表彰基準で表彰をしているが、第 1 号から第 10 号までの基準にはあてはまらない功績として、第 11 号該当として検討をするということによいか。

(若月教育部長) そのとおりである。

(大橋委員) 活動年数も長く、継続して活動されている。

(羽賀委員) アフガニスタンに行く際に、寄付金を託され 48 教室を造った。そのことから、とても良い活動をしている団体だと思う。

(高橋教育長) 他に質疑、意見のあるものはないか。

(高橋教育長) それでは、長岡ベンチャークラブを被表彰者として「適」として決定してよいか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) それでは「適」と決定する。

(高橋教育長) 表彰は 11 月の教育委員会表彰式で行うのか。

(若月教育部長) 長岡ベンチャークラブについては、日程を別途調整し、感謝状を贈呈したい。

(高橋教育長) 事務局には都合の良い日程を決め、感謝状の贈呈準備を行って欲しい。

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議は終了する。

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、六日市地区 2 小学校統合に関する要望書について事務局の説明を求める。

(茂田井学務課長) 六日市地区 2 小学校統合に関する要望書について説明する。10 月 19 日に、六日市地区教育環境懇談会議代表者 3 名が、住民の総意として、六日市小学校と山谷沢小学校の統合に関する要望書を高橋教育長に提出したものである。なお、要望書には、両小学校の P T A 会長、保育園保護者会長、地区内全町内会長の押印がある。要望要旨は、平成 30 年 4 月に六日市地区の 2 つの小学校を統

合すること、統合後は山谷沢小学校の校舎を使用し、校名を岡南小学校とすること、スクールバスの運行を行うこと、学校駐車場を整備し、その他の整備に地域の声を反映させることである。次に、要望書提出に至った経緯を説明する。平成 24 年度連合町内会会議で、地域の少子化を懸念し統合について話があり、平成 26 年度の同会議で再度協議され統合に向け動き出した。その後、地区として正式に協議を進める必要があるため、平成 27 年 12 月には地区の町内会、P T A 代表、保育園代表が参加する教育環境懇談会議が立ち上がった。勉強会や保護者アンケート、町内会説明会等を経て、六日市小学校がすでに複式学級になっており、少しでも早い方がよいこと、また、地域の将来を担う子どもたちのことを第一に考えて、地区住民の総意として六日市小学校と山谷沢小学校の統合を要望することで協議がまとまったものである。なお、当初は、十日町小学校を含む岡南中学校区 3 つの小学校の統合を視野に、十日町地区も勉強会を開催していたが、話し合いの結果、この度の統合には加わらないことになった。次に要望を受けた教育委員会の対応についてである。基本方針としては、地元の要望を尊重して平成 30 年 4 月の統合実現に向け準備を進める方針である。今年度は、要望どおりの新学校名とするため長岡市立学校設置条例の改正、県教委への教員要望、統合関係予算の要求などを予定している。なお、学校統合および学校設置条例の改正申し入れについては、次回教育委員会での議決を経て、12 月の市議会に上程したいと考えている。平成 29 年度は、地元主催で閉校記念式典が開催される予定である。参考として、今年度の六日市小学校の全児童数は 43 名、山谷沢小学校の全児童数は 88 名であり、六日市小学校の 1 年生 3 名、2 年生 4 名は複式学級となっている。今後統合しない場合は、六日市小学校は複式学級が 2 学級となり山谷沢小学校においても平成 34 年度には複式学級となる見込みである。平成 29 年度の入学者数は 2 校を合わせて 18 名、統合する平成 30 年度の入学者も同じく 18 名である。

(高橋教育長) この統合について地元では、5 年程前からどのような体制にしたら良いのか検討が進められてきたものである。正式には、平成 27 年 12 月に地区教育環境懇談会議を立ち上げて約 1 年間検討した結果、統合に関する要望書の提出となった。要望書提出の際に、自分たちの卒業した学校がなくなるのは寂しいが、子どもたちのことを考えると、これから小学校、中学校、高校等を経て社会に出ていく

際に、少人数教育を決して否定するものではないが、ある程度の集団の中で揉まれながら自分たちの子どもを育てたいという地域の方々の考え方であり希望であると同った。教育委員会としても、地元の方々が、統合への協議をまとめており、また2校の児童数を確認すると統合することが望ましいと感じる。長岡市では、地元の意見がまとまらない状況では積極的に統合の話はしていないが、地域としてのまとまった希望や意見はしっかりと受け止めて、子どもたちの教育活動に支障がないよう対応していきたい。なお、統合にあたり地元の方々の要望があるため、協議をし、子どもたちにとって一番良い状況になるように統合を進めていかなければならない。

(高橋教育長) 次に、平成28年度 第1回熱中！感動！夢づくり教育推進会議 会議報告について 事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長) 9月28日に、平成28年度第1回熱中！感動！夢づくり教育推進会議を行ったため、会議報告をするものである。

(木村学校教育課企画推進係長) 平成28年度初めての熱中！感動！夢づくり教育推進会議を開催した。推進会議の委員は、平成27年度の委員は10名の議員定数だったが、要領を改正し平成28年度は13名体制とした。新任者7名を加え、より多角的な視点から事業等に意見を伺うことを目的としたものである。会議内容は、今年度の事業概要についての説明や質疑応答を行った。また、今回初めての試みとして、膝を交えたワークショップを行った。推進会議委員と実際に夢づくり教育を現場で行っている校長、各実施団体、関係課職員が参加し、6班を作り1時間の意見交換をおこなった。ワークショップの意見等は、現在集約中であるが来年度の予算要求と事業計画等に活かしたい。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員) 委員、校長、各課職員の計59名でワークショップを開催したことはとても良いと思う。ワークショップでの主な意見の中で、学校と地域がうまくつながっていない部分があるので今後工夫の余地ありとの意見があるが、詳細説明を願う。

(木村学校教育課企画推進係長) 学校と地域の関係は、今までと同様に基本的には良好である。しかし、一部の地域の方から学校の敷居が高いや担当者が誰なのかが

わかりにくいという発言があった。市民協働センターや学校の担当教員を通じて協議できる体制をとっているが、その周知が今後の課題であり、研究が必要だと考える。

(大橋委員) 会議は大事であり、漠然と一般論でまとめるのではなく、ぜひ今後も具体的に話を掘り下げてもらいたい。次に、教員と市民の交流の場の創設等を行ってほしいとの意見があったが、これも極めて大事な意見だと思う。教育委員は、多数の人の意見を聞く立場であり、余計にそのような感じをうける。この意見についても、ぜひ精力的に取り組んでほしい。

(羽賀委員) 市民協働ネットワーク長岡には、学校からたくさんの問い合わせがあり、市民団体と学校の教員をつないでいる。他市から異動し、長岡がよくわからない教員でも市民と繋がれるように活動している。

(大橋委員) 教員側が積極的にかかわろうとしていることがわかり良かった。

(高橋教育長) 熱中！感動！夢づくり教育に関しては、教員と市民団体とのつながりが必要となる。地域では、学校と市民は密に交流を図っており、心配はないと考えるが、幅広く市全体で考えた場合、学校現場と市民団体がどのようにかかわっていけるかが今後の課題ととらえる。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

(大橋委員) 多くの事業内容から希望者を募ることができ、参加人数が大勢ではなくても実施できるため、学校は喜んでいる。しかし、活動が多方面になりすぎて実施側の極端な負担増加になりすぎてもいけない。活動も長期になっておるため、今後継続するにあたり、慎重に、また厳密に取り組んでほしい。

(高橋教育長) 長い期間活動していると、今まで通りにとってしまう場合がある。基本は子どもたちのためであることを常に意識し、熱中！感動！夢づくり教育で子どもたちに何を与えることができるか、見直しをしながら変えるべきところは、思い切って変え、実施して行きたい。また、ワークショップでの意見は大変参考になるため、その意見を道しるべに、来年度以降の実施に向けて工夫して欲しい。

(羽賀委員) 今回初めてワークショップを実施した。その際に、今後どこに特化していくのか、取捨選択をやり直さないかということテーマにして各テーブルで議論した。現場の声をしっかりと聞くことができたため、今後のプロジェクトに繋げ

ていきたい。

(高橋教育長) 新年度の事業にぜひ活かしてほしい。

(大久保委員) 教員や様々な立場の方々と同じテーマについて話し合うことができ、多くの意見を聞くことができた。しかし、少し時間が足りないように感じた。

(羽賀委員) 今までには少ない委員で協議をしていたため、どうしても意見が偏りがちになっていた。そこで、委員を増やし、今後も広い視野で協議を重ねたい。

(高橋教育長) 教員や委員、そして、実施している団体が参加しており、良いスタートとなったのではないか。これをきっかけに熟度を深めて欲しい。

(青柳委員) 参加する学校、企画する者、講師の方々それぞれの意見を取り入れ、活かされているようで良かった。

(羽賀委員) 10年目に総括をし、何が必要で何が役に立ったのかという論議をした。その上で、さらに見直しを図っている。

(青柳委員) この度、ながおか市民協働センター長が委員になったため、コーディネーターとしての役割ができ大変有益である。

(羽賀委員) 教員から、地域内の団体に依頼はできるが、地域外の活動をしたい場合に相談先に困っていたため、この度の協議で繋がりを持つことができよかったとの意見があった。広域の長岡という視点が、これから学校経営に必要なことになる。

(高橋教育長) このような協議の場を持ち、少しずつ完成形に近づけていくことが大事である。

(竹内学校教育課長) よいものをさらに深めるために、意見を頂いている。どのように進めたら良いか検討し、今後も取り組んでいきたい。

(羽賀委員) まちなかキャンパスでは、子どものコースがある。外部の活動とも連動して熱中！感動！夢づくり教育を進めることができるとより良いのではないか。

(高橋教育長) まちなかキャンパス、生涯学習、市民協働センターなど関係機関があるため、横のつながりも大切にしながら事業に取り組んで欲しい。

(高橋教育長) 次に、火焰型土器の在英国日本大使館プレ展示、及び大英博物館での常設展示について事務局の説明を求める。

(小熊科学博物館長) 縄文文化・火焰型土器の活用・発信事業として、英国ロンドンの大英博物館及び在英国日本大使館を訪問して交流を図った。長岡市の訪問団は、

長岡市長代理として高橋教育長、関市議会議員、小林達雄國學院大學名誉教授ほかであり、10月2日から10月6日まで訪問した。大英博物館で火焰型土器4点を常設展示とするにあたり、10月3日に大英博物館の関係者らと面談をし、記念品として火焰型土器の複製品と長岡市の火焰型土器の模様が描かれているマンホールの蓋を贈呈した。大英博物館での常設展示に先立ち、在英国日本大使館入り口脇のギャラリーで10月3日から10月12日までプレ展示会を行った。また、10月3日には、在英国日本大使館ホールにてオープニング式典が開催された。加藤特命全権公使と高橋教育長が挨拶をし、小林達雄國學院大學名誉教授から縄文文化や火焰型土器のレクチャーを行っていただいた。その後、交流を図るレセプションが開かれ、長岡の日本酒とお菓子をふるまった。多くの方々から参加いただき、約150人の出席者があり、その様子は新聞やインターネット等で多方面に配信された。プレ展示後、大英博物館に資料を移動して、10月14日から大英博物館日本ギャラリーで常設展示を開始した。大英博物館からは、日本の文化の象徴的な存在の火焰型土器を展示することで、多くの人に鑑賞してもらえないかとの意見を聞いた。なお、この模様は12月24日に特別番組で放送される予定である。

(高橋教育長) 大英博物館にある日本の展示コーナーには、5千年前に出土した展示品などがあつたが、しっかりと形が残っているものではなかつた。その点、今回は種類の違う火焰型土器4点が並んで展示され、大変インパクトがあつた。また、副館長に火焰型土器の複製品を渡した際には、土器の形状や使用用途など大変興味を持っていただき、縄文時代や縄文人の生活について等の様々な話題が出た。大使館の方から、レセプションに150人が参加することは多いという話を伺い、それだけ興味をもたれた方がいたのではないかと思う。ヨーロッパのマンホールにはデザインマンホールがあまりないため、寄贈したマンホールと実際に人が行き来している映像があれば、大英博物館のホームページに掲載可能とのことであつた。大英博物館で長岡の映像が流されることは、非常に画期的なことであるため、ぜひ映像作成を進めてほしい。年間700万人も世界中から来場がある大英博物館に、長岡の土器が展示されたことをスタートとして、今後も長岡を情報発信していきたい。

(高橋教育長) 次に、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」審査結果について事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) 平成 28 年度 家庭で子どもに手伝いをさせよう運動「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」の審査結果を報告する。平成 19 年度から「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」を実施しており、その一環として参加型の取り組みであるポスターコンクールを実施したものである。長岡市内の小学 1 年生から中学 3 年生まで合計 252 点の出品があった。昨年度は 188 点であったため、今年度は前年度を上回る多くの出品があった。9 月 29 日に 5 名の審査員で厳正なる審査をし、大賞には小学生部門に宮本小学校 4 年生の児童、中学生部門は旭岡中学校 2 年生の生徒が選ばれた。大賞の 2 点は、10 月 26 日に宮本小学校で大久保委員から、11 月 8 日には旭岡中学校で青柳委員から表彰をしていただく予定である。なお、審査会で選考した入選作品計 42 点を、11 月 12 日から 17 日までさいわいプラザ 1 階市民交流ホール、11 月 19 日から 27 日までアオーレ長岡西棟 3 階市民協働センターで展示する予定であるため、ぜひご覧いただきたい。

(高橋教育長) 次に、パパ向けの子育て講座実施報告について 事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) 平成 28 年度 パパ向け講座の実施報告をする。家庭の育児力・教育力の向上を図ることを目的に、施策に取り組んでいるが、特に、今年度はパパ向けの講座に力をいれて企画実施をしているものである。実施講座の内容として 4 つの講座を報告する。1 つ目に、「パパトーク」を毎月 1 回、参加人数は平均 4 組 8 人程度で実施している。特徴として、ちびっこ広場に勤務している男性保育士が企画をし、パパ同士が本音で話せる機会を提供している。2 つ目に、今年度より「パパサロン～いろんなオヤジのいろんな親父論～」を企画し、ぐんぐんを運営している「になニーナ」のネットワークを通じて、こだわりのあるゲストパパを迎え自分の子育てがこれでいいのかを本音で語り合った。実施は計 5 回で、6 月 26 日と 9 月 18 日はパパママサロンとして、パパだけではなくママも参加した。3 つ目に、母子保健推進委員が計画した「パパママと赤ちゃんのつどい～パパも聞いてよ！遊んでよ♪～」を 7 月 9 日に実施した。親子の参加で、男性保育士が子育てのコツを教え、13 組 37 人の参加があった。4 つ目に、子ども家庭センター主催の「完璧なパパなんていない!! お父さん向け子育て応援講座」が、8 月 23 日から 10 月 4 日までの毎週火曜日に 7 回連続の講座を開催した。育児の不安や孤立感の

軽減を図ることを目的として、虐待防止ネットワークの専門講師が講座を実施した。今後の課題として、パパ向けの講座以外にも子育て世帯向けの講座も数多く実施しているが、各子育ての駅や中央公民館でも類似の講座を実施しているため、今まで以上に情報共有を行い調整が必要である。どれも良い講座であると思うが、周知不足もあり参加が少ない講座もあるため、PRにより力をいれていきたい。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) いろいろな視点からの企画があり、良いと思う。「パパサロン」講座の「パパママサロン」の2日間は、夫婦参加である場合は保育支援はあったのか。

(大矢子ども家庭課長) 保育を行っていた。

(高橋教育長) 人がより集まるためには、テレビを通じて情報発信をしてはどうか。子どもや親子の映像などは、ニュースで取り上げられやすいと感じる。広報担当と相談をしてPRに取り組んで欲しい。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 以上で協議報告事項を終了する。

(高橋教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものはないか。

(大矢子ども家庭課長) 催し物案内一覧には記載のないものであるが、3件チラシを配布した。1つ目は、11月の児童虐待防止推進月間をPRするチラシである。2つ目は、11月5日に長岡ロータリークラブと長岡市教育委員会が共催する「新沢としひこ・山野さと子ジョイントコンサート」のチラシである。長岡ロータリークラブから地域貢献として子育て支援の協力をしたいと申し入れがあり、長岡ロータリークラブが費用を出資し、市が協力をして子育てに関するイベントを行っている。新沢としひこさんは、代表作に「世界中のこどもたちが」があり、山野さと子さんは代表曲に「ドラえもん」の主題歌がある。なお、終了後にはサイン会や物品販売等を行う予定である。3つ目は、「長岡・子育てハッピーライフフェア」である。若者から提案があった子育て応援事業のメインイベントである。11月5日、6日に、子育て講演会と長岡を知ってもらおうコーナーを設けた。会場は、ハイブ長岡2階特別会議室である。なお、1階では、民間団体の大きなイベントがあり2日間で18,000人の来場者が見込まれる子育てのイベントがあるため、協力をしながら、2階にも集客を図りたいと考えている。来場者からアンケートをとり、その結

果をもとに移住して来た方や新米パパ向けに長岡の情報を冊子にして配布したい。

(小熊科学博物館長) 長谷川邸再建 300 年記念特別展の「歌麿と清湖 越後の豪農 長谷川家が生み出した美」という特別展を開催する。美人画の日本最高峰との呼び名が高い喜多川歌麿の肉筆「立姿美人図」は、普段は東京国立博物館に寄託され、通常展示はしていない資料であり、もともとは、長谷川家にあったことからこの度の公開に至った。幕末から明治にかけて活躍した女流画家の「奥原清湖墨堤春色図 屏風」も見事な作品である。この機会にぜひご覧頂きたい。

(金垣中央図書館長) 作家のビアトリクス・ポター生誕 150 年を記念して文芸講演会「ピーターラビットと子どもの本の礎」を開催する。講師の斎藤惇夫さんは、長岡市出身の児童文学作家である。現地の様子も含め、講演をお願いしている。

(武樋教育総務課長) 斎藤惇夫さんは、平成 27 年に第 19 回米百俵賞を受賞された方である。

(竹内学校教育課長) 10 月 22 日から 24 日まで、岩手県北上市で全国障害者スポーツ大会が開催され、高等総合支援学校 2 年生の生徒がフライングディスクに出場した。また、新潟県選手団の旗手も務めた同校事務職員がアーチェリーに出場している。2 人はメダルを期待されており、その際には表敬訪問や結果報告を考えている。続いて、中野俣小学校が学校周辺の野生動物の保護や観察をまとめ、環境省と日本野鳥保護連盟が主催の野生動物保護実績発表大会に新潟県代表で出場する。新潟県からは 34 校の応募があり、県代表として選出された。大会は、11 月 21 日に東京で開催される予定である。2 件とも、結果については随時報告を行いたい。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。また、報告事項、補足説明はないか。

(大橋委員) ながおか夢フェスタの参加予定学校数を教えて欲しい。

(竹内学校教育課長) 合計 16 校が参加する予定である。詳細についてはチラシが完成次第別途案内を行う。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。また、報告事項、補足説明はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員